

スモールワールドコーヒーアワー Small World Coffee Hour

2024年度 活動報告

総合文責：岡田英美里

1. 団体紹介

Small World Coffee Hour（以下、コーヒーアワー）は国際交流イベントを企画・運営する団体である。留学生・日本人学生を問わず、様々な所属・学年の人が出会い、繋がる場を提供することを目的として、2005年後期に発足した。以降、イベント内容に工夫を凝らし、組織運営を円滑化することで、15年以上継続するに至っている。

1.1 理念

「国際的なコミュニティ作り」「言語能力の向上」「参加しやすいアットホームな雰囲気」を指針として、名古屋大学におけるさらなるGlobalization（国際化）を目指す。

留学生や国内学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ人たちに、学内外で多くの交流の場を提供することを目的としている。それぞれの文化的背景を考慮した誰もが楽しめるイベントを行えるよう心掛けている。

1.2 特徴

- 有志の学生が中心となり活動している。（学部・学年・国籍は問わない）
- 誰でも参加できるオープンなイベントを月1回のペースで開催できるよう、企画・運営を行っている。
- イベントでは、参加者同士が話すきっかけとなるようなテーマを設定し、アクティビティを実施している。

2. 活動紹介

2.1 活動について

2.1.1 ミーティング

週1回の頻度で行い、企画書をもとにして、その月のコーヒアワーのテーマや内容、役割分担、会場のレイアウトなどを決めている。各ミーティングでは、議事録を作成し、参加できなかったメンバーも内容を共有できるようにしている。

2.1.2 広報活動

各イベントのポスターを作成し、学内に掲示する。コーヒアワーのFacebook、Instagramにポスターを投稿する。また、海外留学室等のメールで広報していただく。今年度はSNSやメールによる広報が中心であった。

2.2 コーヒアワーについて

2.2.1 当日の動き(目安)

13:00～ ミーティング：イベントの企画、次のイベントについて

14:30～ 準備：会場で企画書に沿って設営開始／飲み物やお菓子を準備

14:50～ 受付開始

15:00～ イベント開始

16:30～ イベント終了、片付け

17:00～ 振り返りミーティング

2.2.2 今年度の振り返り

今年度は、新体制での活動を開始し、6名の学生コーディネーターが中心となってイベントの企画をした。月毎の大きなイベントとは別で、身近な多言語交流の場、「言語カフェ」を定期的に設けるなど、新しい形での国際交流に挑戦した。

イベント中も参加者になれるべく多くの人と交流、また自分の好きな言語で交流できるよう工夫したため、国内学生・国際学生相互の親善友好に一層本団体は貢献できたと考えている。

3. 年間行事記録

3.1 【6月】Speed Meet and Ice Cream Party

日時：2024年6月4日（火）

場所：国際棟 1 階 ラウンジ

参加人数：41名



イベント概要：

参加した人とおしゃべり（Speed meet）して、休憩中にアイスなどを食べて楽しむ（Ice cream party）イベントを実施した。パワーポイントに出されるお題に沿って、5分間パートナーと喋り、次のお題ではまた別のパートナーと組むことで、より多くの人との交流を図った。質問は誰でも答えやすく、他の話題に発展しやすい質問をスタッフで考えた。

実施した感想：

まだ暑かったこともあり、たくさんの方がイベントに参加してくれた。当日参加した順番でアイスを配ったため、進行がスムーズに行ったのでとても良かった。

気づいたこと（改善点など）：

留学生の割合が多く、使用された言語が英語だけになっていた。留学生と交流をしたいけど英語に自信がない日本人学生や、日本語を練習したい留学生に配慮し、使用言語についてルールや案内があっても面白いと思った。

3.2 【6月】名古屋城トリップ

日時：2024年6月30日（日）

場所：名古屋城

参加人数：24名

イベント概要：



留学生に日本の歴史と文化に触れる機会を提供するため、名古屋城の見学および横丁での昼食を行う日帰りの野外活動を実施した。ひとグループ約5人ほどの、日本人と留学生を混ぜたグループを作り、名古屋城についての紹介を交えながら見学をした。昼食もグループごとにとり、親睦を深める機会とした。

実施した感想：

身近な歴史的建造物を見学する機会は、留学生にとって良かったのではないかなと思う。また、さまざまな国籍の留学生が数多く参加したことから、日本の文化に興味を持つ留学生は多いのではないかと考えられる。お土産屋さんで日本らしいグッズを留学生が興味を持ってたくさん購入している姿も印象的だった。

気づいたこと（改善点など）：

スタッフの中には初めて名古屋城に行くメンバーもあり、グループの引率が難しく、全体の流れが滞ってしまうことがあった。野外の活動では、参加者全員が常に揃っていて安全が確保されていることが重要であるので、スムーズな進行のためにも、スタッフ全員で事前に下見をしたり、しっかりとルートの確認を行ったりする必要があると感じた。また、より多くの情報を留学生に伝えられるようにするためにも、予備知識などを紹介できるように準備していくことも大切だと感じた。

3.3 【12月】言語カフェ①

日時：2024年12月6日（金）

場所：国際棟 1 階 ラウンジ

参加人数：17名

イベント概要：



言語カフェの第1回では、参加者を四つのテーブルに分け、自己紹介カードを用いて10分間のアイスブレイクで会話をした後、20分ずつ英語だけで喋るセッションと日本語だけで喋るセッションを設け、トークテーマカードを引きながらの会話をを行った。最後には写真撮影とフリートークタイムを設け、他のグループの人ともコミュニケーションを取れるようにした。また、フィードバックカードを記入してもらい、スタッフメンバーで振り返りを行った。

実施した感想：

4人がけのテーブル4つがちょうど埋まるくらいの参加者が参加したので、規模感はちょうどよかった。また、時間配分について、会話が盛り上がるグループには少し短く感じられたが、全体としてスムーズに進めることができた。英語を喋る時間と日本語を喋る時間をしっかり分けることで、日本人にとっても留学生にとっても、会話を深めつつ、学びのある良い

時間にすることができたと思う。一部日本語が難しい参加者にはスタッフメンバーがサポートとして入ったことも良かったと思う。

気づいたこと（改善点など）：

タイマーが、時間になった時に音が鳴るように改善することで、より円滑に進むのではと考えた。また、日本人の参加者が少なかったため、留学生が日本語を学ぶ機会にするためにも、日本人に向けた広報や、より日本人も参加しやすいような開催場所や時間を検討していく必要があるといえる。

3.4 【12月】Movie Night

日時：2024年12月13日（金）

場所：国際棟 1 階 ラウンジ

参加人数：23名



イベント概要：

ポップコーンを食べながら映画鑑賞をできるイベントを開催した。12月にちなんで、The Nightmare Before Christmasの鑑賞をした。映画を見るだけでなく、終わった後にトリビアクイズを行い、点数が高かった上位3名にお菓子をプレゼントした。

実施した感想：

始めにアイスブレイクを行ったことで、いい雰囲気イベントを進めることができた。映画の音声や字幕の言語も、当日多数決をとって決めたことで参加者全員に楽しんでもらえたと思う。

気づいたこと（改善点など）：

参加者間の交流が最初のアイスブレイクのみだったので、トリビアを3-4人のグループで行うなどもっと交流を促進できる工夫をしてもいいと思った。

3.5 【12月】言語カフェ②

日時：2024年12月20日（金）

場所：全学教育棟 1 階 S14

参加人数：17名

イベント概要：



参加者に、4つのテーブルに分かれ

て座ってもらい、20分間、日本語か英語のどちらか決められたほうだけでグループトークをした。机の上にあるテーマカードを引き、そのテーマについて話した。セッション1が終わったら、セッション2では言語を交代し、20分間その言語でトークした。セッション2終了後は全員で写真撮影をし、30分間自由トークの時間とした。

実施した感想：

1テーブル4～6人ほどがちょうど良く、アイスブレイクも含めてそれぞれがしっかり話す事ができた。全学教育棟で行ったため、日本人の参加者が今までと比べて増え、割合がちょうど良かった。

気づいたこと（改善点など）：

教室の場所が入り口から離れたところにあったため、教室までの案内や呼び込み担当を事前に決めたほうが良かった。集合写真を撮るのに時間がかかったので、次からは写真はなくても良いと思われた。

3.6 【1月】言語カフェ③

日時：2025年1月10日（金）

場所：国際棟 1 階 ラウンジ

参加人数：7名

イベント概要：



言語カフェの前回のイベントと同じく、

参加者は気軽に英語と日本語で話せるイベントでした。飲み物とお菓子も結構ありました。アイスブレイクの後、英語と日本語の20分ぐらいのセッションがありました。最後にフリートークの時間もありました。

実施した感想：

今回は参加者の人数は少なかったけれど、そのおかげで環境はさらに心地よくなりました。正月の時期に開催したからもう一度大学の人と話したがつてる人が色々いました。

気づいたこと（改善点など）：

一月の上旬は普通参加者が少ない傾向がありますから、少しテーブルのレイアウトを変えたらいいかもしれません。

3.7 【1月】書道

日時：2025年1月31日（金）

場所：国際棟2階 CALEフォーラム

参加人数：10名

イベント概要：



日本文化を体験してもらうために、書道イベントを開催しました。スライドで筆の持ち方や基本の書き方を説明し、スタッフが書くスペースと道具を準備しました。参加者は好きな漢字を書き、最後に一番よくできた作品を選んで共有しました。その後、参加者とスタッフで投票して「最も芸術的な作品」と「最も深い意味を持つ作品」を二つ決めました。勝った人にはお菓子をプレゼントしました。

実施した感想：

参加者は多くなかったですが、楽しいイベントになりました。留学生が日本文化を体験し、楽しんでくれて嬉しかったです。書道が得意な日本人メンバーがサポートしてくれたおかげで、誰も取り残されずに楽しめたと思います。中には172画の難しくて複雑な漢字に挑戦し、見事に書ききった人もいて驚きました。こうしたイベントに興味を持ってくれる留学生がいるのが、とても嬉しく思いました。

気づいたこと（改善点など）：

1月31日はまだテスト期間中だったので、忙しくて参加できなかった人もいたかもしれません。1月にイベントをやるなら、前半に開催し、後半は気軽な言語カフェにするのがよさそうです。また、参加人数が分からず、多めにテーブルを準備して良かったです。足りなくなるよりは良かったです。準備が必要なイベントでは、やはり申し込みフォームを作ったほうがよかったかもしれません。

4. メンバー紹介

Humberto Lopez Cobos 人文学研究科博士前期課程1年

日本に来てからもうすぐ2年経ちます。今までコーヒアワーでいろいろなイベントを開催する機会がありました。メンバーの皆さんの協力ありがとうございました。この一年間の経験を活かしてもっと楽しいイベントを開催したいです。2025年の春学期もよろしくおねがいします。

趙 文迪 国際開発研究科博士前期課程2年

2024年第2期から、ついにボランティアメンバーからコアメンバーになりました。研究の負担から解放され、学生時代最後の半年を国際交流に捧げられたことは、本当に貴重な経験だったと感じています。短期間で新しい組織体制へ移行したにもかかわらず、コーヒアワーのメンバーたちは斬新な企画を次々と生み出し、イベント運営を効率的にこなしていく姿に圧倒されました。その生命力と、国際交流への熱い情熱を肌で感じることができました。また、和気あいあいとアイデアを出し合い、イベント当日には日英で懸命に司会を務める後輩たちの姿に、かつての自分を重ねて胸が熱くなりました。思わず涙がこぼれるほど感動した瞬間もありました。このサークルで過ごした時間は短いながらもかけがえのないものであり、これから社会に出る自分にとって、ずっと力となり、背中を押し続けてくれると確信しています。

岡田英美里 G30農学部応用生命学科4年

今年度から体制を少し変更し、今までのコーヒアワーとは一味違う、定期的な国際交流イベントを開催しました。特に、留学生と国内学生の交流を促進することを目的とするだけでなく、参加者の「言語能力の向上」を目指しました。

この新しい体制での活動をサポートしてくださった先生方、また、一緒にイベントの企画を考え、一生懸命に動いてくれた仲間たちに心から感謝申し上げます。これからのコーヒアワーがどのような体制で進めていくのが最適か、みんなで相談しながら進めていきたいと考えています。

Dima 理学部化学科2年生

コーヒアワーの司会などをするのは楽しく、気づけばもう2年が経ちました。この2年でコーヒアワーに参加したおかげで、多くの新しい人と出会い、名古屋大学での生活がより楽しくなりました。イベントを運営するのはやりがいがあり、参加者の笑顔を見ると嬉しくなります。国際的なコミュニティを感じると前向きな気持ちになり、その一員として貢献できるチャンスがあって嬉しいです。

岩瀬千佳 農学部応用生命科学科2年

私は、大学に入ったら国際交流ができる団体に所属し、留学生の方々と関わりたいと考えていました。今では、留学生メンバーと共に協力しながら、大学内での国際化を活発化させる

ためにさまざまな企画を考えたり、より多くの学生が国籍を超えた繋がりを作れるようなサポートをしたりすることにやりがいを感じています。これからも楽しみながら、より広く、深いコミュニティを作っていけるよう、活動の幅を広げて行きたいです。

八木友羽 農学部資源生物科学科2年

大学では国際交流のサークルに入り、多国籍の留学生との交流を通して国際的な視野を広げたいと考えていました。コーヒアワーに入って、留学生も日本人学生も楽しめるイベントを自分たちで企画、運営することができ、充実感や楽しさを感じています。これからも、よりたくさんの人のニーズに合わせた、言語学習、国際交流のサポートができるよう取り組んでいきたいです。